

「資料編報告書（案）」前回の検証報告書との対比表

ポイントまとめ

- ・「持続可能な地下水の保全と利用」を見据え、一般向けのレポートとは別に、資料編報告書として地下水と地盤に関する網羅的情報、及び実態把握（大学との共同研究）について整理
- ・H29から大学との共同研究による実態把握を開始しており、本報告書では初めて掲載。
- ・実態把握の意義やそれに至る経緯として、水循環基本法（改正）やH28報告書の地下水管理のあり方（保全と適正利用）について、9-1実態把握の背景、位置づけで記載

※まえがき及び共同研究成果の一部、今後の地下水対策の方針については、今回は未作成、第3回委員会で検討

平成28年発行 検証報告書	資料編報告書（案）	ポイント
まえがき	まえがき	今回未作成 第3回委員会で検討予定
検証の基本的な考え方、主要な検証事項		
第1章 総論	1. 東京の地形	地下水を取りまく環境としての地形・地質、気象、利用状況に大きく影響のある人口を説明
1 地下水とは	2. 東京の気候	
2 東京の地形と地質	3. 東京の人口	
(1) 東京都の地形	4. 東京の地質	
(2) 東京都の地質	5. 東京の地下水	産総研、土センより得たデータを用いて地層面をわかりやすく3Dで描写
(3) 地形・地質から見た東京の地下水流動	5-1.地下水とは	
(4) 地盤沈下のメカニズム	5-2.東京の帯水層	
3 地下水揚水規制の歴史、体系	5-3.不圧帯水層における地下水の流れ	
4 地下水の過剰揚水がもたらす損失	5-4.被圧帯水層における地下水の流れ	
第2章 東京都の地下水と地盤の状況	6. 東京の湧水	
1 被圧地下水と地盤の状況	7. 東京の地下水に係る問題	持続可能な保全と利用を実現する上で、踏まえておく必要がある地下水に係る問題などを説明
2 地下水の利用	7-1.地盤沈下の発生	
3 湧水の状況	7-2.湧水の枯渇	
4 都市化による不浸透率の増加	7-3.地盤沈下の損害対策	
5 地下空間の開発	8. 東京の地下水と地盤の状況	地下水水位は回復傾向、地盤沈下は沈静化状態にある。 前回の報告書から傾向に大きな変化はなし
第3章 地域ごとの地下水と地盤の状況	8-1.モニタリング方法	
1 区部低地部の検証	8-2.東京全域のモニタリング結果（地盤・地下水位、揚水量）	
2 区部台地部の検証	8-3.区部低地部におけるモニタリング結果	
3 多摩台地部の検証	8-4.区部台地部におけるモニタリング結果	
4 地域ごとの検証を踏まえた新たな検証	8-5.多摩台地部におけるモニタリング結果	
第4章 地下水と地盤状況の検証結果まとめ	9. 地下水の実態把握に向けた調査研究	【新規】
1 検証結果のまとめ	9-1.実態把握の背景、位置づけ	実態把握の意義やそれに至る経緯として、水循環基本法（改正）、H28報告書の地下水管理のあり方について説明
2 考察	9-2.地下水流動系の解明に向けた研究	現在研究中の共同研究の成果の一部を、今後追加予定。第3回委員会で検討予定。
第5章 今後の地下水管理について	9-3.地下水の揚水等の影響予測	
	10.地下水の持続可能な保全と利用へ向けて	今回未作成 第3回委員会で検討予定